

全農ETセンターニュース12月号

平成13年12月4日

全農黒毛和種体内凍結受精卵の受胎率調査速報

本年4-9月までのユーザーの一部である全国18JAについて受胎率の調査を本所生産基盤対策課が実施しましたので、その成績と各JAでの受胎率向上のための留意点を御報告します。何らかの参考になれば幸いです。

JA略号	移植頭数	受胎頭数	受胎率	留意点(順不同)
MA	45	28	62.2	○ET実施可否は移植者が決定＝生産者ではない。 ○受卵牛のボディコンディション 発情時の確認・移植時の黄体 確認・移植等の一連作業は同一 人が実施している。 ○発情時に子宮の状態を確認し 場合によってはビタミン剤等の 給与を指導している。 ○移植時の徹底した無菌操作 を行っている。 ○発情後5日目に場合によっては HCG1500単位を受卵牛に筋 注する。 ○専任体制での移植を行って いる。 ○生産者への発情確認の重要性 を日々指導している。 ○熟練が最も大事である。
TY	51	23	45.1	
OT	100	50	50.0	
DA	67	39	58.2	
HO	4	3	75.0	
HA	82	50	61.0	
IK	27	20	74.1	
OK	30	27	90.0	
SH	6	3	50.0	
OU	12	10	83.3	
MI	14	8	57.1	
FU	17	12	70.6	
IW	9	3	33.3	
AG	28	22	78.6	
SA	16	10	62.5	
SY	24	15	62.5	
TA	48	22	45.8	
IK	10	7	70.0	
合計	590	352	59.7	

ちなみに平成11年度の体内凍結卵の全国平均受胎率(農水省生産局調べ)は43%です。全国平均以下または平均近いところが18ヶ所中3ヶ所ありましたが、逆に70%以上が7ヶ所ありました。例数のバラツキも大きいいため単純に地区別の比較はできませんが、ETセンターとしては今後も受胎率向上につながる情報を入手したら、ユーザーの皆様へETセンターニュースで続報を発信させていただきたいと考えております。